

別紙2

三重県 中央会情報連絡員報告総括表 (令和7年7月)

情報連絡員数	40 名	回答者数	40 名	回答率	100.0 %
--------	------	------	------	-----	---------

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況						
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食 料 品	0	3	1	0	4	0	1	3	0	1	3	0	0	3	1	0	3	1	0	4	0	0	4	0	0	4	0				
	織 維 工 業	0	1	2	0	3	0	2	1	0	0	3	0	0	1	2	0	1	2	0	2	1	0	3	0	0	0	3				
	木 材 ・ 木 製 品	0	0	2	1	1	0	0	2	0	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2				
	紙 ・ 紙 加 工 品	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1				
	印 刷	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1				
	化 学 ・ ゴ ム																															
	窯 業 ・ 土 石 製 品	0	3	0	0	3	0	1	2	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0				
	鉄 鋼 ・ 金 属	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0				
	一 般 機 器	0	0	3	1	2	0	2	1	0	0	2	1	0	0	3	0	2	1	0	1	2	0	2	1	0	0	3				
	電 気 機 器	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1				
	輸 送 機 器	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0				
	そ の 他																															
小 計		1	9	10	3	16	1	8	11	1	1	16	3	2	7	11	0	15	5	1	11	8	0	17	3	0	9	11				
非 製 造 業	卸 売 業	1	1	0	0	2	0	1	1	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0	X			0	2	0	0	0	2	0			
	小 売 業	0	4	2	1	5	0	3	3	0	0	5	1	0	4	2	0	4	2				0	6	0	0	0	4	2			
	商 店 街	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0				0	1	0	0	0	0	1			
	サ ー ビ ス 業	1	2	1	X			1	3	0	0	4	0	0	3	1	0	3	1				0	3	1	0	3	1	0	3	1	
	建 設 業	1	3	0				1	3	0	1	3	0	1	3	0	1	3	0				1	3	0	0	4	0	1	1	3	0
	運 輸 業	0	1	0				1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0				0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
	そ の 他	1	1	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	1	1	0	0	2	0				0	2	0	0	1	1	0	2	0	
小 計		4	12	4	1	8	0	8	12	0	1	17	2	2	13	5	1	16	3	0	18	2	1	15	4							
合 計		5	21	14	4	24	1	16	23	1	2	33	5	4	20	16	1	31	8	1	11	8	0	35	5	1	24	15				

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和6年7月～令和7年7月)

三重県中小企業団体中央会

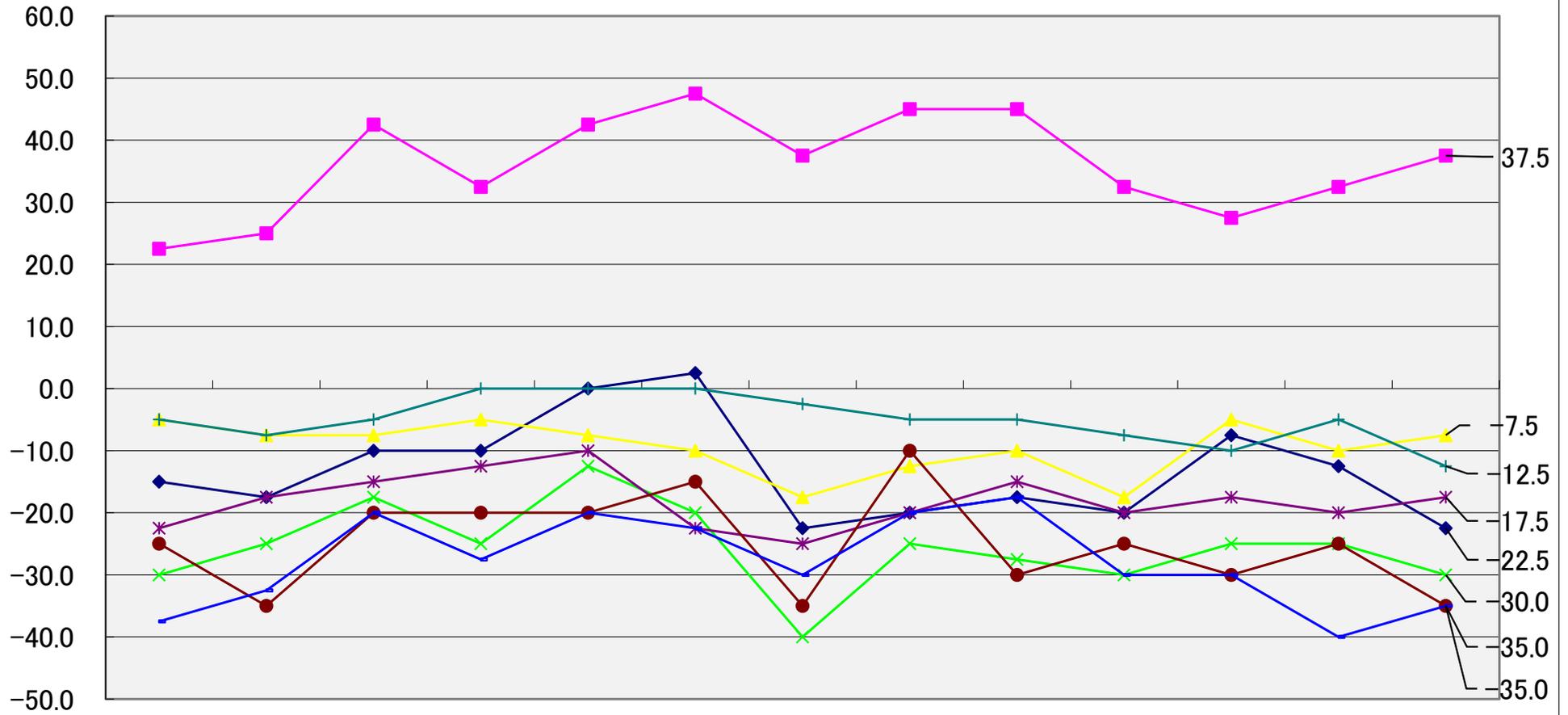
連絡員総数 40名

	6/7月	8月	9月	10月	11月	12月	7/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	増減
売上高	-15.0	-17.5	-10.0	-10.0	0.0	2.5	-22.5	-20.0	-17.5	-20.0	-7.5	-12.5	-22.5	-10.0
販売価格	22.5	25.0	42.5	32.5	42.5	47.5	37.5	45.0	45.0	32.5	27.5	32.5	37.5	5.0
取引条件	-5.0	-7.5	-7.5	-5.0	-7.5	-10.0	-17.5	-12.5	-10.0	-17.5	-5.0	-10.0	-7.5	2.5
収益状況	-30.0	-25.0	-17.5	-25.0	-12.5	-20.0	-40.0	-25.0	-27.5	-30.0	-25.0	-25.0	-30.0	-5.0
資金繰り	-22.5	-17.5	-15.0	-12.5	-10.0	-22.5	-25.0	-20.0	-15.0	-20.0	-17.5	-20.0	-17.5	2.5
設備操業度	-25.0	-35.0	-20.0	-20.0	-20.0	-15.0	-35.0	-10.0	-30.0	-25.0	-30.0	-25.0	-35.0	-10.0
雇用人員	-5.0	-7.5	-5.0	0.0	0.0	0.0	-2.5	-5.0	-5.0	-7.5	-10.0	-5.0	-12.5	-7.5
業界景況	-37.5	-32.5	-20.0	-27.5	-20.0	-22.5	-30.0	-20.0	-17.5	-30.0	-30.0	-40.0	-35.0	5.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

6/7月 8月 9月 10月 11月 12月 7/1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月



◆ 売上高 ■ 販売価格 ▲ 取引条件 × 収益状況 * 資金繰り ● 設備操業度 + 雇用人員 — 業界景況

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がりが経営を圧迫する状態が続いている。今年は米の価格高騰の影響により、米の消費が減少しており、それにつれて漬物の消費も伸び悩んでいる。一方で高温乾燥の影響により、夏野菜の生育に影響が出ており、原料不足が心配されている。7月29日には東京ガーデンパレスにおいて全国漬物検査協会の通常総会が開催された。
	醤油味噌	梅雨明けが全国的に早く、今年も連日の猛暑となっている。米の店頭売価は備蓄米の放出で若干下がってきている。しかし、夏の猛暑の影響が今年の米の収穫減にならないか不安である。米味噌の原料である加工用米の調達不安は残っている。7～8月にかけて食品の値上げがあり、仕入れ価格も上がり、コストアップ要因となる。米国関税が日米合意に至り一定の見通しが立ったが、ミニマムアクセス米のアメリカからの輸入割合が75%増と大幅アップとなり、約60万トン輸入されるが、食用への転用量によっては、加工用米の価格がどうなるのか注視していく必要がある。
	他に分類されない食料品 製造業	参議院選挙も終わり、減税や給付、年収の壁に関する議論が行われている。その中で、最低賃金の上げが言われている。一昨年、昨年と徐々に引き上げてきて1,000円を超えるようになったが、1,100円を超えたら対応できず、市に加工賃を引き上げてもらうしかない。社会保険料はあまりにも高い。パート従業員には副業も勧めている。
	製麺	7月22日全国製麺協同組合連合会理事会在開催された。その会議の中でも、2会員（島根県・山梨県）が脱退することとなった。また、全国大会が長崎県で11月5日に開催される。全国の組合で国内産小麦粉使用生中華麺の品評会と米粉めんの品評会も開催する。三重県は8月18日～22日の間で会議の開催予定である。
木材・木製品	木材	猛暑と虫害の発生しやすい時期でもあり、良質な原木入手が難しく価格は下がる時期だが、人手不足やコスト高を背景に原木価格はほぼ保合、国産材製品の荷動きは依然として低調で人件費や配送料等のコスト高騰で厳しい経営環境が続いている。
	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。また、従業員の確保が困難となっている。
紙・紙加工品	古紙	7月の仕入れ量は段ボール・約93±5%程度、新聞、チラシ・約92±4%程度、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約96±3%程度である。全国製紙原料商工組合連合会の理事長が交代し早一年となり製紙産業界の運賃値上げや決済期日60日以下への短縮となり、古紙の持ち去り行為と持ち去り古紙の買取の法律違反とする立法化等の実現が進んでいるように思われる。米国関税により大きな経済環境変化を受ける日本だが最低賃金の上昇により近い将来に更なる幸せな消費活動へいずれ結びつくと思われる。海外旅行観光客の経済効果が東京都・大阪府の万博による大都市圏や有名観光地の京都や三重県では伊勢神宮や長島スパリゾート等で出ている様だが製紙会社からの製紙原料古紙の発注は前年マイナスで集荷も少なく同業者の古紙の在庫も無い状態で古紙の集荷も一部の業者を除いて少ない。古紙や古着の持ち去りやゴミの置き去り行為等は、ざる法でない立法化と検挙を願う。
	印刷	目まぐるしく変化する情勢に対応すべく、AIを使った有効なデザイン、また問題点を情報共有すべく研修会を津支部にて開催した。今後、県印工組においても、同様にAIのセミナーを開催する。
	窯業・土石製品	業界としては夏場は売上が減少する時期でもあるが、各窯元は日々の仕事に励んでいる。関税に関する影響はそれほどないと思われる。原材料価格の高騰は影響がある。
	鉄鋼・金属	業界の生産額は、総じて堅調な状況である。なかでも自動車関連のうちEV関連の受注が好調であり、当面同様の状況が続くと見込まれる。
一般機器	四日市市	全体的に停滞気味であり、なかなか仕事量の回復が見られない。米国との関税の問題がひと段落を迎え、その結果が良い方向に出ることを期待する。
	津市	先月に受注が集中した反動で7月は受注減となった。受注の波が激しく、材料の発注に苦慮している。売上金額は上がっているものの材料値上げによるもので、実際には受注が落ちている。米国関税による影響はまだわからない状態であるが、いろいろな物価が上昇しているため中小企業はますます厳しくなるのではと思われる。
	伊勢市	米国関税が決着し、ひとまず安心となったが、先行きの不透明感はず変わらずである。自動車業界も工作事業の業界も悪い。最低賃金を大きく上げる話になってきているが、人件費のアップは価格転嫁が難しく困る。景気回復はまだまだ遠く感じている。
電気機器	鳥羽市	状況は好転せず、横ばいで稼働している。半導体関連の電機部品発注が非常に悪く、9割減の状態である。
輸送機器	伊勢市	受注は一般機械器具では増加し、物量改善により、採算面回復傾向にある。米国の関税政策の直接的な影響ではないが、自動車部品の物量は減少傾向が続く。賃上げ、金利上昇、企業物価の高止まり等、国内における経営圧迫材料解消の見込みが薄く、米国関税決着とは言え、過去に比べて厳しい状況に変わりなく、予断を許さない状況が続くと思われる。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
小売業	青果	(野菜前半) 全体的に入荷量が少なめだが、長野産レタスの生育が順調で安定した入荷が見込まれる。群馬産・愛知産キャベツも安定して入荷があり、価格もお買い得になっている。ジャガイモは消費が鈍くお値打ちになっている。ニンジンも青森産・北海道産の生育が遅れていて高値が続いている。(野菜後半) 高温の影響でトマト・キュウリ・ピーマン等の入荷が少なく高値になっている。トウモロコシは長野産が中心で価格は昨年並みである。これからは北海道産の入荷が増えてくる。岐阜産大根が順調に入荷している。(果物前半) 愛知産・山梨産モモは生育が遅れて入荷も少なく小玉が多く高値である。スイカの産地が鳥取・石川・長野・山形と広がっているが高温で需要が多く、高値が続いている。愛知産ハウスみかんも高温のため色づきが遅れて入荷が減り高値である。(野菜後半) スイカは山形産、そして特に長野産がおいしくて人気だが、猛暑が続いているので価格は高値どまりである。地場産幸水梨も高値とカメムシの被害で作柄が悪く高値である。小ぶりだった山梨産のモモもやや大きめに育っているが高値である。ハウスみかんはお盆に向けて引き合いが強い。
	自転車	日米関税交渉の合意を受けるも、世界経済は引き続き不透明さが残り、消費者物価上昇率は5、6月発表の2.2%から3%台で推移している。米不足や様々な物価高騰の影響がある中、鈴鹿市の田んぼでは早生品種の新米収穫が始まった。JA鈴鹿の直売所では5kg3,600円で販売される見込みである。飲食店から問い合わせが相次いでいるという。我が業界においては猛暑の影響も重なり、街行く自転車利用者は非常に少なく、各店は閑散とした日々が続いている。過去に無いほど買い控えが目立ち、修理売上を含め、新車販売台数共に対前年比71.4%を示す結果となった。
	電器	本格的な猛暑が始まってきた。例年と同じく早期にエアコンの買い替えを進めていた消費者から購入の案件があったり、故障から買い替えに繋がったりしている。非常にありがたい話だが、少し暑すぎではないかと心配している組合員も多い。熱中症のニュースが流れたり天気予報も猛暑の告知が多い。気にしないといけないのは、我々は地域の電器店なので年配の一人暮らしの方などエアコン故障で困っていないか気かけなければならぬ。今年の猛暑はいつまで続くのか心配である。
	石油	政府・中央防災会議が南海トラフ地震防災対策推進基本計画を改定した。震度6弱以上、またはM3以上の津波が予想され、その水位より高い海岸堤防がない地域などを対象とする「南海トラフ地震防災対策推進地域」として16市町村を追加指定し、合計1都2府27県723市町村と、全市町村の実に4割超に達した。当該自治体には「防災対策推進計画」不特定多数の人の出入りがある施設には「防災対策計画」の策定を求めている。一方、事前の備えとして燃料の供給拠点へのアクセス道路の優先警戒体制の整備、避難所・医療施設・ライフライン施設における自営的備蓄、優先給油方策の事前策定、燃料供給に関する適格な情報提供などを促している。また、災害時にSSの機能が確保されるよう、地域の燃料供給拠点となるSSで災害時実地訓練を実施するとされている。三重県石油商業組合ではこれに基づき各地の中核SS・小口燃料配送拠点・住民拠点SSなどで毎年訓練を実施している。昨年度は津市で、一昨年度は志摩市で実施し、今年度は桑名市で実施し、有事の際の災害対応に対する訓練を実施し、最後の砦となるべく使命を果たす心構えを持つ。
商店街	熊野市	津波警報の影響でこの地方の交通機関をはじめ、スーパー、コンビニ、また運送関係もすべてがストップした状況になり、影響は広範囲に渡った。同商店街でも休業する店舗もみられ、少なからず影響があった。今回は今までにない特殊なケースであったかとは思いますが今後のあり方も検討の余地があるかと感じる。
サービス業	旅館	お客様が少ないのは大阪・関西万博へ集中して行っているためとよく言われているが、大阪市内のホテルが混んでいるとしても、大阪周辺の温泉地等はそうでもないとの情報が入っている。それにしても夏休みに入っても海水浴場の賑わいもなく、暑い日はクーラーを効かせた家で過ごすより、涼を求めて海へ山へ出かけて活動的な暑さ対策をすることを望む。対前年同月比70~90%程度の業績であった。
	警備	昨年より今年は梅雨明けが早く、稼働日数が多く売上が上昇すると思われたが、とにかく猛暑日の連続で無理をさせられず休日を増やしたり、労働時間の短縮をしたりで売上高の維持に苦労した。これからの労働状態の改善が必要となる。
建設業	総合工事業	令和7年6月の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べては27%の増加となった。内訳でみると、国、県と市町でいずれも増加によるものとなっている。4月から6月までの第1四半期の対前年度比は35%増加となっている。
	内装工事業	7月は前年同月比でプラスとなった。ただ、物価高による原材料価格の高騰等により建設関係の受注が減少傾向にあり、今後、業界の見通しは非常に悪い。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	水道工事業（亀山市）	亀山市からの委託業務については、量水器の取替えは月の計画通りの個数の取替えを行っている。漏水修理についても月に20件程度の修理を行っている。受注高については、本年度の予定通りだと思われる。民間工事については、まだまだ材料価格が高騰しており、厳しい状況が続いている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
一般機器	四日市市	賃金、手取りのアップを進める政策を推進するようだが、中小企業においてはなかなか賃金アップを進めるのは難しい状況が続いている。手取り額の向上を進めるのであればぜひ社会保険料の減額をお願いしたい。
印刷	印刷	去年の7月情報連絡に、県からの印刷仕様書に著作権・コンテンツ版バйдール契約の理解が進んでいないと記載したが、1年経過した今なお、理解がされていない。コンテンツ版バйдール契約を結んだことで、著作権は受注者に残ることを周知徹底するか、フリー素材・有料素材の双方とも、権利はイラスト・写真の制作者に残っていることから、この際、著作権譲渡の文言自体削除いただきたい。
建設業	総合工事業	人手不足の状況や資材の確保は依然として困難な状況は前年度より若干厳しい。そのため労務賃金、資材価格の上昇も前年度から引き続き改善されない状況である。
サービス業	旅館	旅行支援事業の再開と、金融支援策を早急に実施してもらいたい。